

快適な水環境を創造し、リサイクル社会・地球温暖化防止に貢献する流域下水道の整備（重点計画）

計画概要

◆計画期間 平成26年度～平成30年度(5年間)

◆計画の目標

流域が一体となって総合的な下水道整備を行い、良好な水環境を創造し、安心して快適に暮らせるまちづくりを実現する。

下水汚泥等の資源・エネルギー利用を推進し、地球温暖化防止に貢献する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①:下水道普及率を、64.2%(H25年度末名古屋市除く)から69.9%(H30年度末名古屋市除く)に増加させる(その他関連する事業を含む。)

指標②:矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区)において、エネルギー利用を目的とした汚泥処理施設等の整備を行うとともに、豊川流域下水道において、PFI事業によりエネルギー利用を目的とした汚泥処理施設等の整備を行う。また、矢作川・境川流域下水道(衣浦西部処理区)において、単独公共下水道との共同処理を目的とした汚泥処理施設等の整備を行う。

指標③:矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区)及び豊川流域下水道において、下水汚泥のエネルギー化を図る。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況(中間年度)

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A (基幹事業名)	4,463百万円	汚泥処理施設等の新・増設、改築更新等を実施	31.8%
B 関連社会資本整備事業	0百万円	—	—%
C 効果促進事業	0百万円	—	—%
合 計	4,463百万円		

※事業費は、平成28年度末までの実績額

※進捗率(%)は、各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況(中間年度)

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区)及び豊川流域下水道において、エネルギー利用を目的とした汚泥処理施設等の整備を行い、下水汚泥のエネルギー化を推進することができた。

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(下水道普及率(その他関連する事業を含む))

中間目標値	67.7%	目標値と実績値に差が出た要因	
中間実績値	67.7%		

指標②(汚泥処理施設等の整備率(その他関連する事業を含む))

中間目標値	2処理区	目標値と実績値に差が出た要因	
中間実績値	2処理区		

指標③(下水汚泥エネルギー化率)

中間目標値	5.0%	目標値と実績値に差が出た要因	運転調整や点検・整備等により投入汚泥量が少なかったこと及びバイオガスの一部を消化槽加温用で使用する等により発生したバイオガスを全量有効活用できなかったため。
中間実績値	3.6%		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

◆今後の方針

愛知県の下水道普及率は全国平均(平成28年度末78.3%)に比べて低いため、引き続き流域が一体となって総合的な下水道整備を実施し、下水道普及率を向上させる。

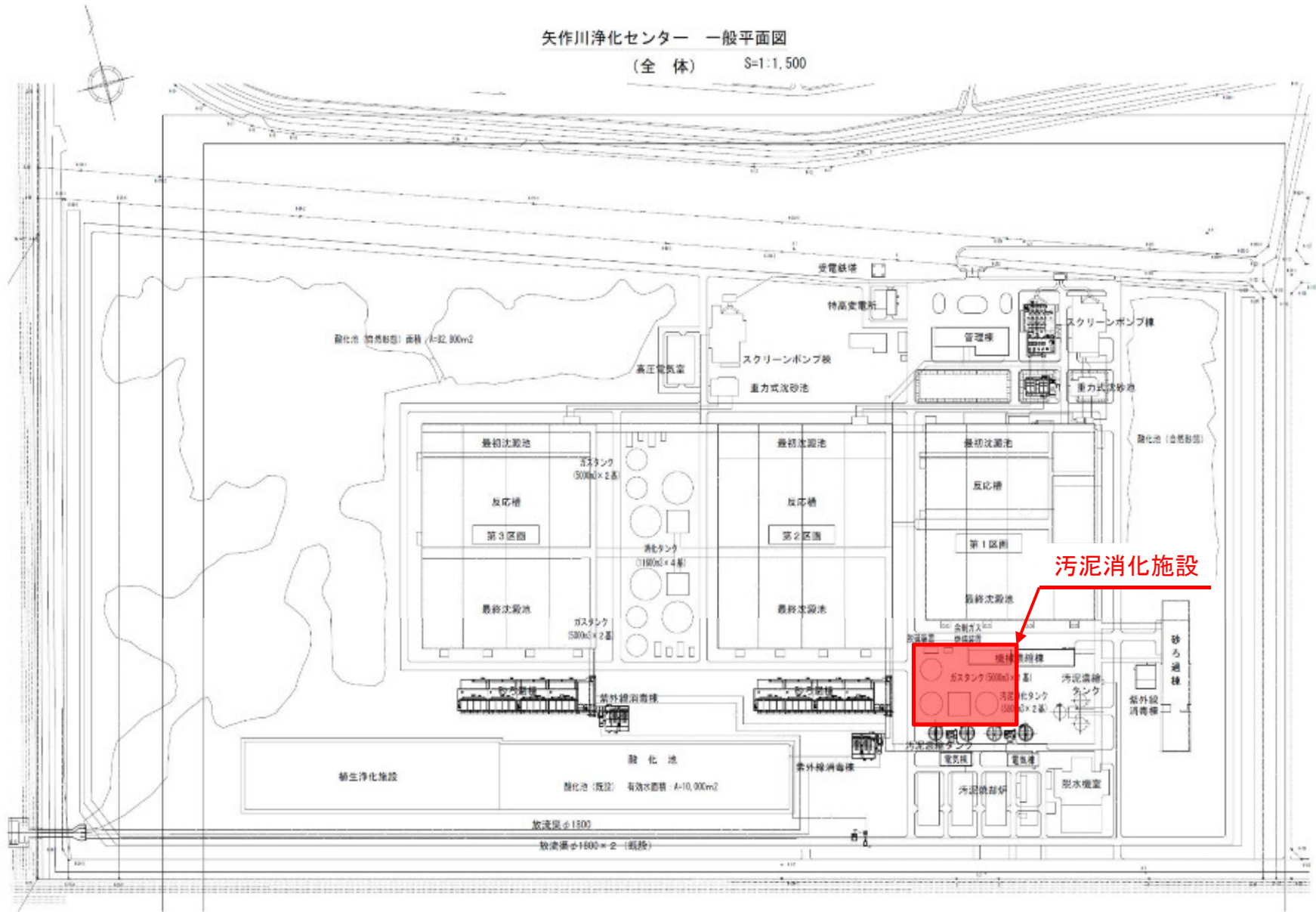
なお、矢作川・境川流域下水道(衣浦西部処理区)において、単独公共下水道との共同処理を目的とした汚泥処理施設等の整備を行い、また、矢作川・境川流域下水道(矢作川処理区)及び豊川流域下水道の下水汚泥のエネルギー化率の向上を図る。

◆中間評価の実施体制、実施時期

中間評価の実施体制	策定主体で評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)については愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。
中間評価の実施時期	平成30年 3月
公表の方法	愛知県建設部下水道課のWEBページ掲載

参考図面

矢作川浄化センター 一般平面図
(全体) S=1:1,500



工事箇所

【基幹事業】

- 事業名 矢作川浄化センター(資源循環)
- 工事概要 汚泥消化施設建設工事 一式
- 事業箇所 西尾市港町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 下水汚泥から発生したバイオガスを汚泥焼却炉の重油の補助燃料として利用することで、重油使用量が削減され、下水汚泥のエネルギー化及び地球温暖化防止に貢献した。

工事施工前



工事施工後

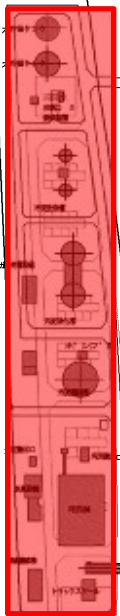


参考図面

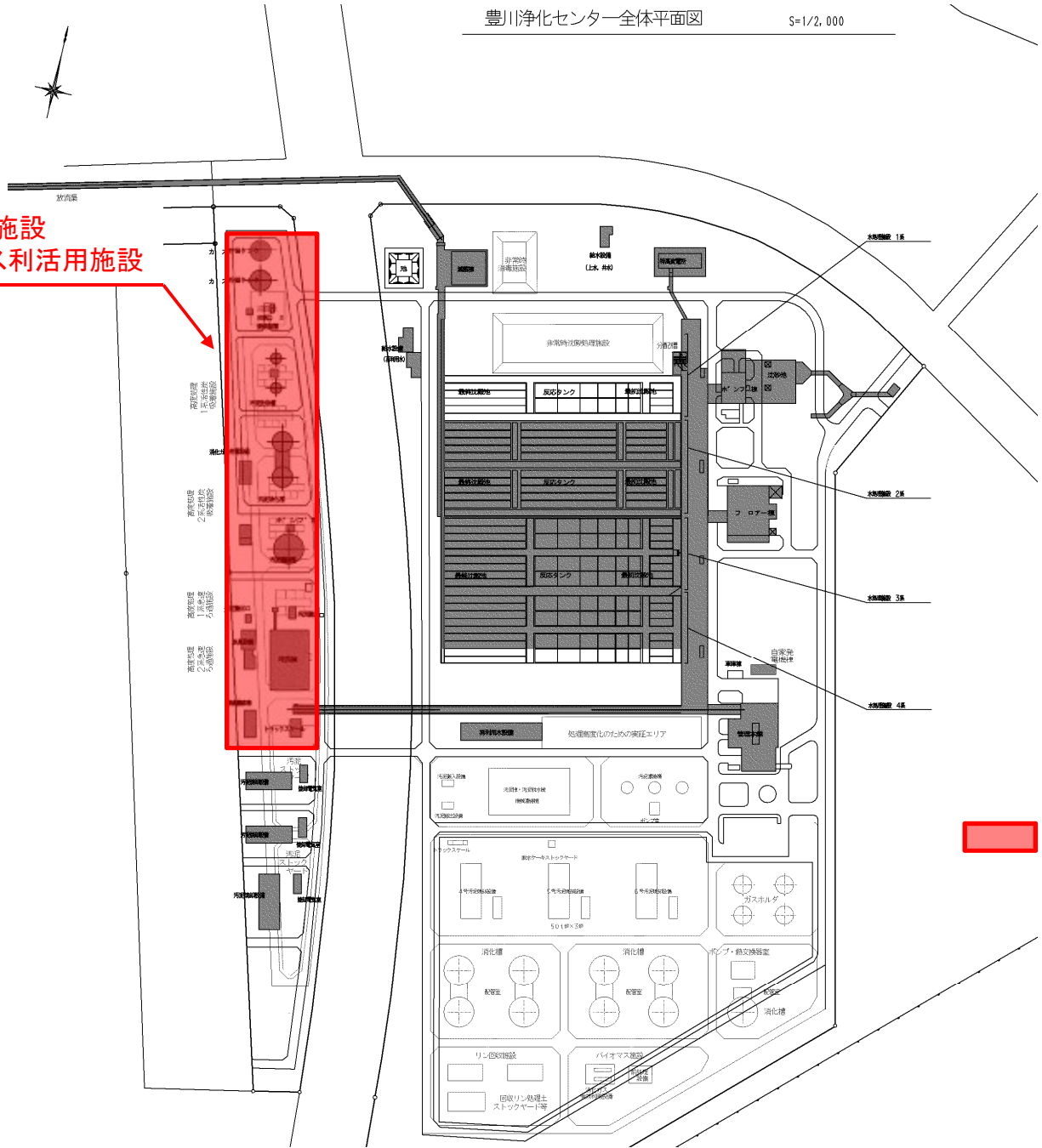
豊川浄化センター全体平面図

S=1/2,000

汚泥処理施設
バイオガス利活用施設



工事箇所



【基幹事業】

- 事業名 豊川浄化センター(資源循環)
- 工事概要 汚泥処理施設等整備・運営事業
- 事業箇所 豊橋市新西浜町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 汚泥処理施設等整備・運営にPFI手法を導入し、既設汚泥処理施設の改築、バイオガス利活用施設を整備することで、下水汚泥からバイオガスを生成することによるエネルギー化及び減容化による汚泥処理費の低減、バイオガス発電により温室効果ガス排出量を削減し、地球温暖化防止にも貢献した。

工事施工前



工事施工後

